◆技術交流

新規漁獲対象種の開拓

吉　田　　聰

1．目的

与那国においては、カジキ、マグロを主とした夏場の曳縄漁業、マチ類（ハマダイ、アオダイ、オオヒメ）を主とした冬場の深海一本釣り漁業が行われている。しかし、ここ数年は景気の悪化、魚価の低迷をうけて経営は非常にきびしいものとなっている。また、与那国は離島のさらに離島という地理的に悪い条件を有し、輸送経費が大きな問題となっている。カジキについては輸送経費の４分の１の補助を役場より受けており、補助が無ければ収支が引き合わないという状況である。

このような状況から、与那国においては、漁獲物を高値で取引をしてくれる販売先や価値の高い新規漁獲対象種を探すことが急務となっている。新規漁獲対象種として可能性のある魚種は、冬場の深海一本釣りにおいて漁獲されるムツがあげられる。地元では漁獲対象種でないため取り引きされることはなく個人で消費しているのが現状である。また、沖縄本島においても県漁連や北部の名護漁協で水揚げされるが、年間を通して約１トンで、価格も300～700円/kgと安価である。しかし、本土市場では水揚げも多く高価である。そこで、ムツの水揚げがあり漁業形態も類似していると思われる伊豆諸島、その中でも年間を通して約50トン近く水揚げのある神津島を視察し、地元漁業者と交流することにより流通・販売が可能か検討し、与那国においてムツが新規漁獲対象種となり得るか判断する。

2．交流会開催地

神津島漁業協同組合

3．日程

平成14年４月28日（水）～８月31日（土）

4．参加者

・与那国町漁業協同組合
　青年部長　玉城正太郎
・八重山支庁農林水産振興課
　吉田　聰（技師）

5．交流内容

〈東京都水産試験場視察〉

当日は神津島視察の予定であったが、台風の影響で海況が悪く定期船が欠航になったため東京都水産試験場の見学を行った。水産試験場長と視察の準備をしていただいた資源管理部技術管理担当係長の武藤氏から伊豆諸島における漁業の話しを伺った。また、試験場の展示場に案内され展示物を観覧した。

〈東都水産株式会社視察〉

水試視察後、視察先を探していたところ水産試験場大島分場の堀井氏の提案で築地市場内にある東都水産株式会社でクロムツの流通について話しを聞くことにした。鮮魚部次長の袴田、篠瀬両氏が対応してくれた。

築地市場でのクロムツの取り扱いについて聞いたが、それほどの量は取り扱われておらず、サンマ等と違いいつでも欲しい魚ではないためそれほど単価も高くならないとのことであった。

バブル最盛期は2000円～3000円/kgで取り引きされていたが、現在では魚体重２kgが主流で約1200円～1300円/kg程度で

取り引きされているとのことであった。また、主な荷受け先は千葉県の銚子で神津島からの水揚げについては、クロムツの取引は無くアカイカ、タカベ、イサキなどが入ってきているとのことであった。

与那国からの輸送については、経費を削減するためできるだけ大きな容器に梱包し無ければいけないが、築地に送ったところでそれを捌くことができる業者がいない。つまり、クロムツが取り扱われるのは、大手スーパーではなく、割烹や小料理屋がメインであるためである。よって少量であれば取引可能であるかもしれないが、少量で梱包する場合は容器代がかさみ、結局経費がかかるため、送らない方が賢明であると指摘された。また、送る場合には鮮度も考慮に入れると築地に送るのではなく、産地消費地でもある鹿児島県に送った方がよいのではないかと提案された。鹿児島であれば各主要市場との取引もあるので捌ききれないことは無いということであった。築地はあくまでも消費地であり築地から別の市場におくることはまずないとの事であった。

〈神津島漁業協同組合視察〉

当初は29日に一泊の予定で多くの漁業者から話を聞く予定であったが、天候不良により定期船が欠航になったため、翌日日帰りで視察することになった。

神津島は東京から178キロ離れた場所に位置しており、島の周囲は22キロで面積は約18平方キロメートルと与那国島の周囲27.49キロ、面積28.88平方キロメートルより小さい島であった。島の環境は与那国によく類似しているように思われた。また、漁獲される魚についても、同様であった。神津島漁協では漁船漁業が主で一本釣り、建切網、採介藻漁業が行われており組合員数は527名とのことであった。

意見交換会では石田組合長、稲葉参事他、一本釣りを主体におこなっている３名の理事から話を聞いた。クロムツについて伺ったところ、神津島で主に漁獲されているのはギンムツということであった。ギンムツは標準和名でムツと呼ばれておりクロムツとは別のものであった。しかし、クロムツはギンムツよりも高値で取引されるとのことである。ギンムツは一本釣りで漁獲され、漁は夕方に出港し朝方に帰港するとのことであった。

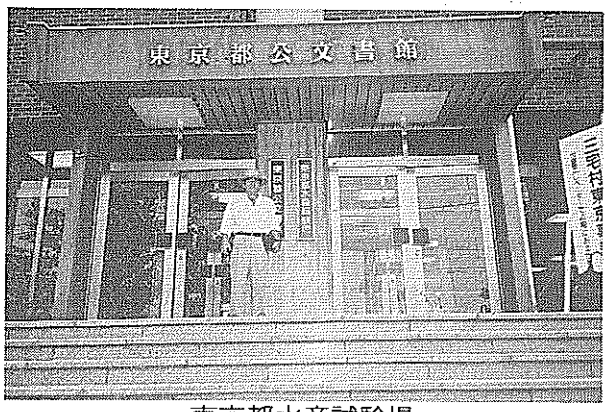
また、ギンムツは大、中、小、特小等の規格別に分けられており、中で2000円/kg前後で、神津島で主に水揚げされるのは特小（0.6kg～１kg）サイズで1000円/kg前後で取引されていた。セリについては、魚があるときは朝夕２回行うとのことであった。出荷先については、神津島漁協では仲買業者が５社ありそれぞれが別々のところに送っているということである。平成13年のムツの漁獲量は41トンほどで、漁獲高は4500万円とのことであった。

意見交換後、漁船、荷さばき、冷蔵、冷凍施設、蓄養施設等を案内していただいた。漁船については、ほとんどが５トン以上の２級船だった。施設については、荷さばき施設以外は最近造られたばかりだった。けれども、蓄養施設については、地震のため海水がひかれておらず稼働していなかった。また、施設見学後、偶然入港してきた船があったので、漁獲物を見せてもらうことにした。漁獲物のほとんどはキンメダイであった。その中に１匹だけクロムツがあったので、じっくりとみせてもらった。与那国の漁業者に確認してもらったところ与那国島の海域で漁獲されるクロムツと同じものであった。

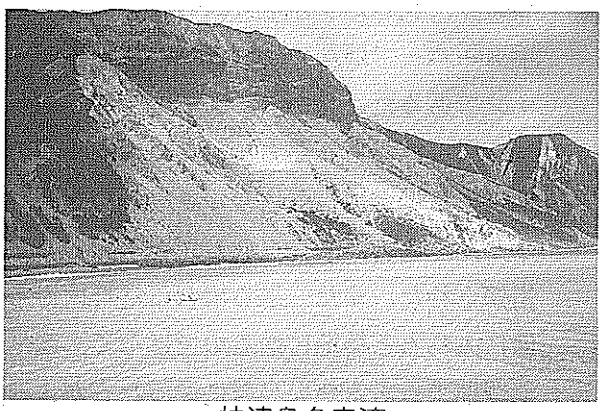
６．所感

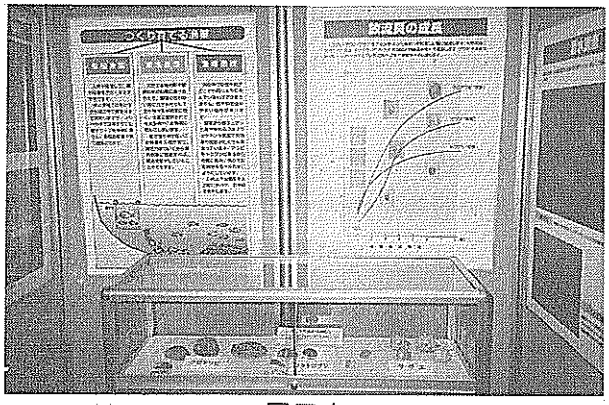
今回の視察では東京の浜崎町から神津島間で往復６時間かかり、島には４時間程度しか滞在

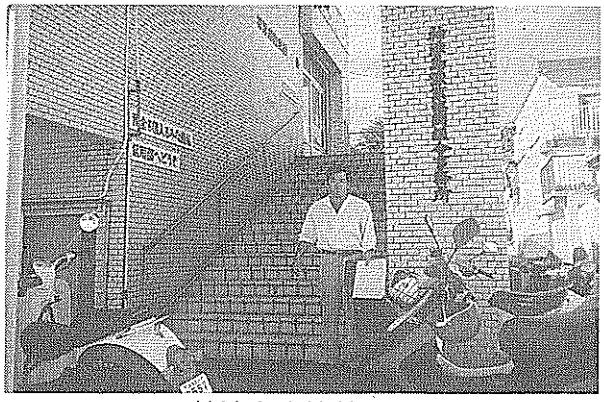
できなかったため、駆け足の視察となった。ゆっくりと話す時間もなく、流通についてもあまり具体的な話は聞けなかったが、漁業者同士の意見交換では、漁具・漁法等で類似しているものがあり、得るものもあったようだった。クロムツの流通については、築地市場の東都水産より厳しい言葉をいただいたが、漁業者とも話し合い県外市場の状況、輸送コストなどを再検討して流通できるか検討していきたい。



東京都水産試験場

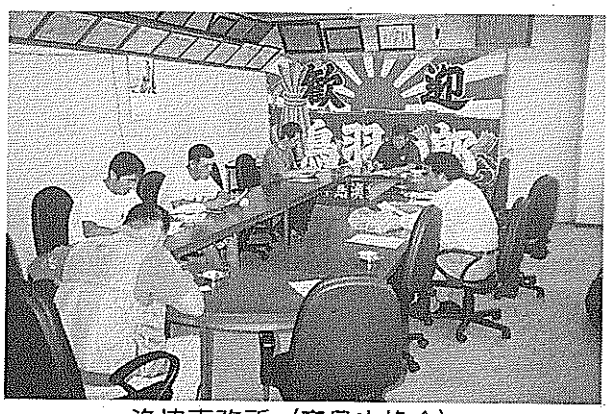

神津島多幸湾


展示室

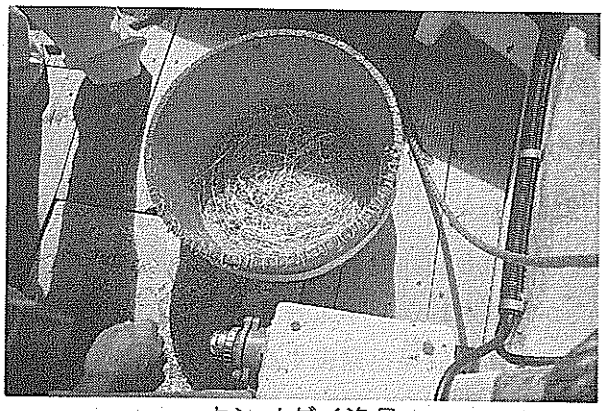

神津島漁協前にて

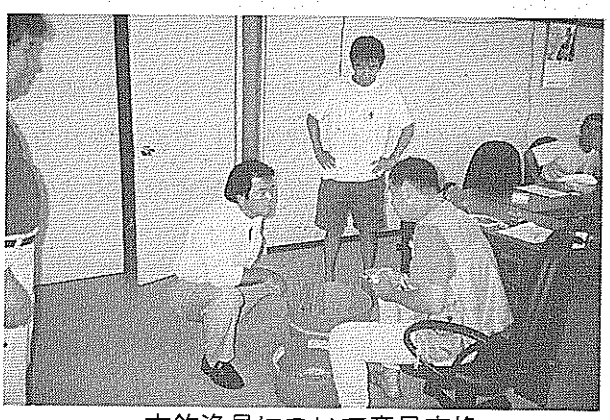
築地市場内

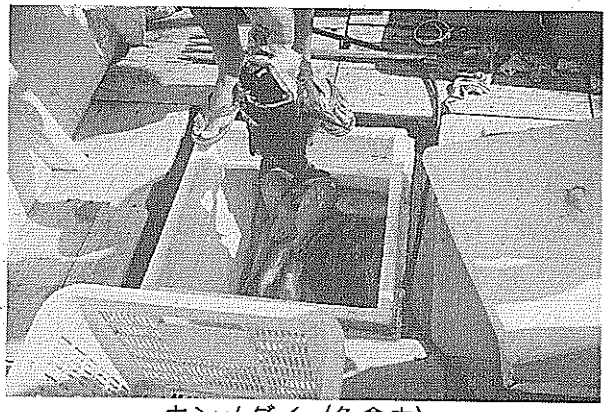
漁協１階は売店で貸し付けていた。



漁協事務所（意見交換会）


キンメダイ漁具


一本釣漁具について意見交換


キンメダイ（魚倉内）

船の見学

クロムツ